

市制施行100周年に向けた
きさらづ未来ビジョン
提言書



令和4年11月3日
きさらづ未来会議

目 次

はじめに	1
1 きさらづ未来ビジョンの概要	3
2 7つのビジョンの相関図	5
3 各ビジョンの内容	6
むすびに(未来に向けて)	22
資料編	23

はじめに

木更津市では、市制施行80周年という記念の年を「これまで」の歩みと「これから」を結ぶ年と位置付け、市民をはじめ、地域、企業、各種団体、行政等が市のまちづくりの担い手として連携し、新たな未来に向けて、さらなる飛躍・発展・躍動の契機とするため、木更津市制施行80周年記念事業を実施しています。

「きさらづ未来会議」は、この取り組みの一環として、本年が市制施行100周年を見据えたまちづくりのスタートの年となるよう、誰もが住みやすいまちづくりビジョンを市民が取りまとめ、市民や市と共有し、市民が主役のまちづくりを進めるために設置されました。

この取り組みに共感し、未来のまちづくりに向け、これまでの経験を活かし力になればと、42人の市民が集い、ワークショップを通じてそれぞれが木更津への想いを語り、意見交換をしました。

年齢も高校生から45歳までと幅広く、市内の学校に通う学生や、実業家、社会人、子育て世代など様々な立場の方が集まり、誰でも受け入れるような温かく話しやすい雰囲気の中で会議が行われました。「全員が参加し一緒に考えていく。」というワークショップ形式で、何か1つの正解を求めていくのではなく、グループに分かれて様々な意見をビジョン案に取り入れる新しい交流の形で、4回にわたり会議が進んでいきました。

普段では関われない方と色々な意見を交わすことで感じたのは、「20年後の木更津市が年代に関係なく愛される、魅力あるまちになって欲しい」という参加者それぞれの想いでした。

正解のない、様々な想いを持った、様々な立場の人が、集い、話し合い、共に考えることで「一体感」や「つながり」が生まれたと感じます。その「つながり」を大切に活かし、この輪を広げながら、そこから生まれる新たな発見を通して、心から豊かで活力のあるまちになって欲しいと思います。未来会議を終えた今、参加者のそれらの想いが、この未来ビジョンには込められているということを実感しています。

木更津の更なる発展は、参加者全員の願いであり、希望でもあります。「20年後の私たちの木更津が、年代に関係なく愛される、魅力あるまちになって欲しい。」という参加者全員の想いが、この未来ビジョンには込められています。

私たちが取りまとめた「きさらづ未来ビジョン」が、市民と市とのパートナーシップによるまちづくりの一つの礎となることを強く願い、ここに提言いたします。



未来会議参加者 42名

(※：学生)

相川 洸介 ※

曾澤 はるか

荒木 梢

池田 恒

石井 溪

イシワタ ケイタ

伊藤 素子

岩井 華恋 ※

大澤 遥

大津 知世

小野 裕太

加藤 緑

カレン・ロバート

岸川 瑠唯 ※

木村 陽子 ※

木下 翔己

今野 絵莉 ※

クリスティーン・アラキ

小島 遼平 ※

齋藤 武

鈴木 明輝 ※

鈴木 捷太

瀬沼 健太郎

曾根 晃

豊増 加代子

永井 温子

中村 瞭志 ※

庭野 航 ※

野口 利一

松田 美樹 ※

松本 佳奈

三好 主晃

三好 智子

森 洋平

安川 朱里

安田 満奈美

矢野 聖 ※

山口 貴成

山田 勇輝 ※

湯本 徳花 ※

吉野 姫花 ※

米澤 聡史

1 きさらづ未来ビジョンの概要

未来会議の中で共通していたのは、ふるさと木更津の良いところを守りたいという思い、少子高齢化や気候危機など悪い変化への不安、そして今よりも良い未来にしたいというチャンス溢れる木更津への期待感でした。それぞれの思いからビジョンテーマは7つにまとめられました。

豊かな自然環境を基盤として、地域の人々のつながりを骨格に、暮らしの中にわくわく感や安心感を増やし、利便性の向上と魅力発信、そして、未来世代へつなげていく仕組みづくりが提言に盛り込まれました。

それぞれのビジョンには、具体的な課題解決アクションのアイデアが盛り込まれています。生活の中で、市民が自主的に出来ること、また、便利さを高めるために企業活動や新しい技術を活用する案、市民ニーズに応えるために行政がイニシアティブを取るべき仕組みなど、課題ごとに提案されています。

○ ビジョンテーマ1 人のつながりがあるまち

世代・出身地・性別・国籍・文化・嗜好、、、。豊かになっていく木更津市民の多様性。他からの移住者を受け入れる懐の深さを木更津の良い点に挙げる参加者も多数いました。

同時に昔ながらの近所付き合いが薄れることへの危機感もあり、「未来に向けて木更津ならではの『つながり』を感じられる地域に、それぞれの居場所があるまちにしていきたい。」という思いが込められています。

○ ビジョンテーマ2 自然とともにあるまち

自然との共生は、これからの豊かな生活の場づくりには欠かせないことが話し合われました。「癒してくれる里海、里山や虫たちなど、子どもが育つのに良い環境を残していきたい。まちの経済的発展を願いつつも、ふるさと木更津の風景を形づくる自然環境を守りたい。」という意見からできたビジョンです。

「美しく、癒される風景を残しつつエシカルで豊かな暮らし、そして自然を生かした産業の充実を図りたい。」という思いが込められています。

○ ビジョンテーマ3 人を呼ぶ魅力のあるまち

木更津を誇れるまちに。PR・発信が足りていないと感じている参加者が多くいた中で、「木更津の魅力」が広く伝わり、ビジターや移住者が増えるように、魅力あるまちにしたいという考えから生まれたビジョンです。

移住を受け入れる住居や交通網の整備、観光業の活性化、マーケティングやPR・発信を強化することが具体的アクションとして話し合われました。

○ ビジョンテーマ4 誰もが安心して暮らせるまち

近年、頻発化・激甚化する災害への備えや、有事の時に頼りになる近所とのつながり不足には誰もが不安を感じています。

また、経済的な困窮や情報不足、治安が悪化することへの不安がある参加者もいました。

困りごとが生じて、地域の住民や専門職・行政が連携して解決する支え合いの輪と力があり、協力して安心をつくり出せる仕組みや意識づくりを取り入れ、「誰もが心配をせずに暮らせるまちにしたい。」との想いがこのビジョンとなりました。

○ ビジョンテーマ5 子ども・若者が育つ環境のあるまち

子育て世代の負担、若者の就職先不足、活躍を後押しする支援や将来の選択肢が広がる教育の充実などが課題として挙げられました。

将来を担う子ども・若者が育つ環境の強化のためのアイデアが話し合われ、子育ての経済負担へのサポート、産後ケアの拡大、教育プログラムの充実などが挙げられました。

私たちのまちを次世代につないでいくための環境づくりへの想いがこのビジョンに込められています。

○ ビジョンテーマ6 わくわくして暮らせるまち

移住者の増加や新型コロナウイルス感染症による影響もあり、ここ数年のイベントの減少、世代によるニーズの違い、学ぶ場がない、文化・芸術・スポーツに親しむ機会と施設が足りていないこと等が課題として挙げられました。

「木更津の楽しい思い出」を増やせるよう、出会いや刺激のあるまちへと成熟し魅力を増幅させるため、公共施設・イベントのあり方への提言、また、市民の文化・芸術やスポーツ文化醸成への期待が込められています。

○ ビジョンテーマ7 生活が便利なまち

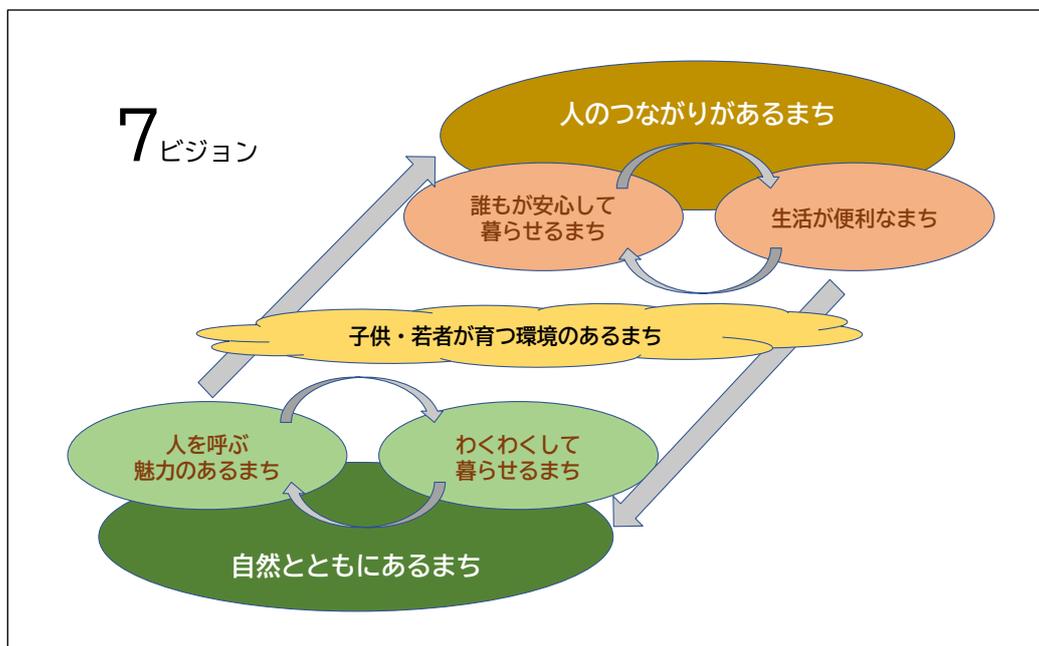
現在、木更津市に暮らす中で、不便に感じ改善したい点や今後悪化が懸念される点が話し合われました。

例えば、路線バスの本数が少なく自家用車がないと移動が困難で、免許や車のない学生や高齢者が困っている点。また、大型商業施設が増えた反面、地元の中小商店が減り、市内でも地域による買い物格差がある点。東京湾アクアラインで都心や空港にアクセスしやすい一方、特に週末や連休は渋滞が発生する地区がある点。

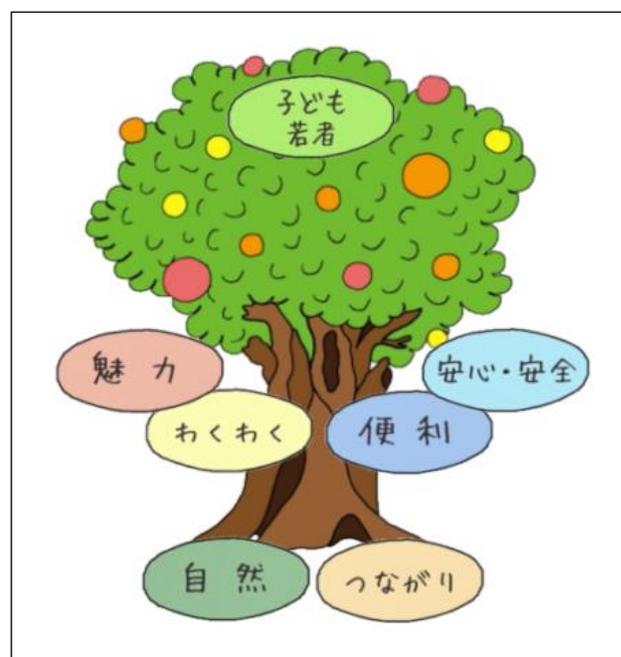
これらの課題を踏まえ、未来に向かって、暮らしの基盤の利便性を高めていけるよう、IoTなどのICT技術の活用やまちのデザインの見直しをビジョンに盛り込みました。



2 7つのビジョンの相関図



20年後



3 各ビジョンの内容

ビジョン1

人のつながりがあるまち

めざす未来	<ul style="list-style-type: none"> ●近所づきあい・助け合いが盛んなまち ●木更津ならではの「つながり」を感じることができる、人と人との交流が盛んなまち ●近所に居場所があるまち
-------	---

プロジェクト1

つながり・コミュニティ

課題	①つながる仕組み・環境の不足
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 人と人が出会える場づくり(何かしたい人、助けてほしい人、役に立ちたい人) <ul style="list-style-type: none"> ●木更津市 SNS でイベント・ボランティア等の呼びかけ ●SNS を活用したり、未来会議のような場を増やす取り組み 2 ゴミ拾いでアイスチケットがもらえるなど、イベントに参加した人が次の場所へ行く仕組みづくり 3 クリーン活動や防災訓練など、定期的な地域活動の実施 4 外国人など、メンター※1登録・紹介制度の実施 5 ボランティア紹介・コーディネーター交流などの実施

※1 メンター:自身が仕事やキャリアの手本となって、助言・指導をし、個人の成長や精神的なサポートをする人。

課題	②近所づき合いの弱体化
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 夏の盆踊りなど、地域で関わるお祭りの実施 2 回覧板を活用し、地域ごと、近所で情報を回覧 3 子ども会への地域の大人が参加 4 寺社仏閣を活用したお祭りやイベントの実施 5 小規模で地域が行えるお祭りやイベントの実施

課題	③コロナ禍における社会の分断
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 病気になったときの助け合い強化 2 市民共有のSNS(掲示板)を開設し、社会のつながりを創る 3 ハイブリッド(オンライン オフライン) 見守り イベント

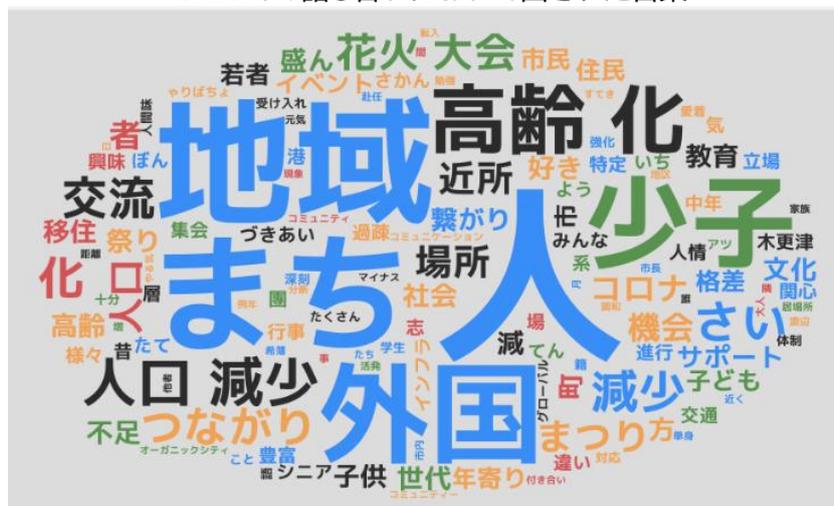
多文化共生

課題	④外国人の受け入れ体制が十分でない
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 木更津市在住の外国人を対象にした、地域内でのホームステイ・交換留学の実施 2 日本文化を紹介できるイベントの実施 3 高校や大学でも、ALTなどの能動的な授業を受けられるような取り組みを増やす 4 外国人向け防災訓練や多言語対応の防災アプリなど、多文化共生の視点を取り入れる

世代を超えた交流

課題	⑤世代間の交流機会の不足
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 多世代が集える・話せる共有スペースや講座、行事、イベントを作る 2 役割体験(学生・母・お年寄りなどの役割交換)の実施 3 学生が主体となって交流できる場を増やす取り組み 4 多世代と一緒に学び・楽しむことのできる(お互いが教え合い、学び合える) 5 コミュニティカレッジの創設

ビジョン1の話し合いにおいて出された言葉



ビジョン2

自然とともにあるまち

めざす未来	<ul style="list-style-type: none">●自然を生かしたまち●自然を楽しむことができるまち●持続可能なまち
-------	---

プロジェクト1

自然との共存

課題	①自然環境の破壊
必要な取組	<ol style="list-style-type: none">1 電気自動車の購入時に補助金を交付2 各地に充電スタンドを設置3 市の景観コード※2(方針)を作り、自然・美しい風景を残しつつ暮らしを豊かにする<ul style="list-style-type: none">●樹木葬

※2 景観コード:景観構成要素である建物等について、配置、素材、形状、色彩などのデザインを方向づけるための基準を定めるもの。

課題	②自然に親しむ機会の減少
必要な取組	<ol style="list-style-type: none">1 山・海のアクティビティを盛り込んだ、体験(旅行)プログラムの作成2 自然の中で遊ぶ・楽しむプロジェクトの継続的な実施3 学校行事における山登り、キャンプ、潮干狩り等の実施

プロジェクト2

自然を生かした産業

課題	③持続性の確保(後継者・資源)
必要な取組	<ol style="list-style-type: none">1 後継者を育てる農業系大学等の創立2 最低収入の補償3 農業、漁業の後継者の育成に向けた研修制度の設立4 学生、若手を対象とした農業、漁業の体験プログラム作成5 Iターン・Uターンを狙った補助事業(技術継承、家賃補助など)の実施6 農家や漁師といった職業のメリットの発信7 使っていない田んぼ等を市で管理し、新規参入者へ提供

エシカルな暮らし

課題	④ゴミ問題
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 ボランティアを活性化し、様々な場所の整備によるキレイで「ポイ捨てしにくい」環境づくり 2 オシャレで映えるゴミ箱を設置 3 レジ袋の値上げで出されるごみを減らす 4 色々な場所へのリサイクルBOXの設置や、リサイクルでポイントが貯まる仕組みづくり 5 木更津市主催のイベント等にゴミ拾いのボランティアも取り入れる 6 瓶・缶・容器のリユースがまち全体でできるシステムづくり

課題	⑤市民や企業の理解・協力が不十分
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 市民・企業へのインセンティブをつくる <ul style="list-style-type: none"> ●協力者への減税 クーポン券の配布 ●協力企業にポイント！ 協力ステッカーによる周知、補助金の交付 ●ゴミを持ち帰らせない工夫をしているお店へのインセンティブをつくる 2 木更津のものを使う 地産地消(企業がPRすると知る機会が増えてよい) 3 エコな考え方を広めるためのイベント開催(エシカル映画祭など) 4 エシカルとは何かがわかりやすく伝わるように、市のエシカル※1を定める <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 社会や環境に配慮することを具体的に決める 5 既にあるものを活用して大々的にPRする <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 木更津の海鮮料理や桜、海、山などのたくさんの魅力をPRする

※3 エシカル:人や社会、地域、環境等に優しいものを購入する消費行動やライフスタイル



ビジョン3

人を呼ぶ魅力のあるまち

めざす未来	<ul style="list-style-type: none">●移住者からも愛される安心安全、楽しい木更津●木更津にしかない！があるまち●皆が知っていて色々な人が来るまち
-------	--

プロジェクト1

移住・定住の促進

課題	①居住・生活の利便性の不足
必要な取組	<ol style="list-style-type: none">1 新しく住む人のための住居(家・アパート・マンションなど)の建設2 バスの本数を増やしたり、無料バスを走らせる3 道路の整備(特に金田地区の渋滞解消)4 空き店舗に新たなお店を入れるような仕組みづくり5 久留里線でも電子通貨を使えるようにする6 駅前等へのごみ箱の設置によるまちの美化

プロジェクト2

訪れたくなる魅力の創出

課題	②観光業の衰退
必要な取組	<ol style="list-style-type: none">1 木更津産食べ物(B級グルメ等)や物(木更津産の木材を使ったいす等)を作る2 様々な文化を楽しむイベントの開催3 木更津の特産物を扱う店(農水産物・加工食品・人気の菓子等のお土産)を作る4 県外からのアクセスの良さを利用していろいろな国や県の食文化を楽しむフード施設を作る

課題	③観光地としての発展の不均一さ
必要な取組	<ol style="list-style-type: none">1 ホテル三日月やアウトレットに来た人が中心市街地まで来るような動線を作る2 中心市街地以外(富来田など)の観光資源を創出する3 海、山の観光業をしっかり分けて海の木更津、山の木更津くらいわかりやすく、おもしろく見せる

プロジェクト3

誰もが安心して暮らせるまち

めざす未来	<ul style="list-style-type: none"> ● 困った時、頼れる人・組織があるまち ● 質の高い医療、介護、福祉を受けることができるまち ● 災害に強いまち
-------	--

プロジェクト1

支え合いの輪

課題	①支え合いのつながりや人材が不足している
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 各医療施設間でのネットワークから各医療従事者団体レベルでのネットワークへ 2 医療従事者、介護従事者における人材バンク化 3 近所同士の信頼性構築、自治会・地区のつながり <ul style="list-style-type: none"> ● まちづくり協議会のような組織を全地区に設立 4 市役所内に専門職配置の充足(市民と行政のつながりが深くなる) 5 うつ病・依存症等心身ともに不安がある人へのサポートの充実

課題	②経済的な負担が苦しい
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 支援金等(特に障害者・高齢者に対するもの)の検討 2 ベーシックインカム※4木更津版の検討 3 雇用率の上昇・多種多様な企業誘致 4 共働きを支援できるような、対子供のボランティア(見守り支援)充実とその保障

※4 ベーシックインカム:最低限所得保障の一種。政府が全国民に対し、決まった額を定期的に預金口座に支給する政策。

ビジョン4の話し合いにおいて出された言葉



安全・安心

課題	③防災の情報が届いていない
必要な取組	1 防災情報の伝達手段の拡充(LINE 等での発信、各家へのポスティング) 2 木更津市特有のウェアラブル機器※5を市内各世帯に配布し、情報伝達に活用

※5 ウェアラブル機器:身に着けて使う情報機器の総称

課題	④防災意識が十分でない
必要な取組	1 防災意識を強化する為の呼びかけ(LINE 等での発信、各家へのポスティング) 2 防災体験施設の設立 3 自治会での講習会(定期的に内容を更新) 4 市民への防災教育を行う 5 小学校・中学校で防災教育を行う

課題	⑤水害・津波のリスク
必要な取組	1 防波堤を高くする 2 津波避難タワーの景観をきれいに保てるようにオシャレに作る 3 住民それぞれがどこに逃げるか決めておく

課題	⑥治安悪化の防止が必要
必要な取組	1 マップ上で発生状況を色分け表示し、事故・事件を可視化する 2 アスファルト以外(レンガなど)の道路・歩道整備 ⇒ 自動車・自転車の減速が期待でき、歩行、ランニングがしやすい 3 監視カメラを設置 4 緊急通報機能付きの街灯を設置 5 警察のパトロール強化

子ども・若者が育つ環境のあるまち

めざす未来	<ul style="list-style-type: none"> ●安心して子どもを育てることができるまち ●教育が充実しているまち ●若い力が活躍しやすいまち
-------	---

プロジェクト1

子育ての環境

課題	①子育て環境の向上が必要
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 病児保育サービスの充実 2 産後ケア事業の充実(兄弟一緒に泊まれる宿泊型、保育園送迎サービスとの連携) 3 適時伴走してもらえるマイ助産師制度 病院での受診の他にマイ助産師による訪問ケア 4 1歳までオムツ・ミルクの支給 5 発達障がいの支援の充実(仕事を含む) 6 育児力の形成に向けた支援 7 今ある公園の充実や公園の新設 8 保育士の人員増加に向けた待遇改善(給料、家賃補助)や育成・研修の充実

課題	②子育ての経済的負担
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 市内企業に就職することを条件とした市独自奨学金の設立 2 給付型奨学金の基準・条件を引き下げ 3 大学卒業用までの給付型の補助 4 出産前後の経済的負担のサポート

教育の充実

課題	③少子化による児童の減少
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 建造物の維持管理の簡略化 2 少人数だからこそできる対話型教育(多様な意見の折り合いをつける) 3 好きなことをとことん追求できるプロジェクト型教育 4 少人数でしかできない独自の教育の充実

課題	④将来の選択肢が広がる教育の充実
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 将来をみすえて何でもできるよう生活力・生きる力をつける市独自の教育プログラム <ul style="list-style-type: none"> ●仕事の体験 2 アクティブラーニング※6型授業の実施 3 ALT の授業以外での交流 4 外部講師(企業・市職員等)によるセミナー開講 <ul style="list-style-type: none"> ●生産者・経営者と実際に出会える、市内の様々な企業を知る機会づくり(SNS含め) ●自治会主体の講座を開講し、そこから SNS でつなぐ 5 キャリア教育としての高校生インターン制(賃金が発生するリアル職場体験) 6 社会人が副業的に自身の専門を教える仕組み(責任や権限も与える) 7 教育者の確保に向けた労働環境改善(17時以降は電話対応なし など)

※6 アクティブラーニング:生徒が能動的に考え、学習する教育法。

わくわくして暮らせるまち

めざす未来	<ul style="list-style-type: none"> ●木更津の楽しい思い出を増やせるまち ●どの年齢層でも楽しく過ごせるまち ●おしゃれして出かけたいまち
-------	---

プロジェクト1

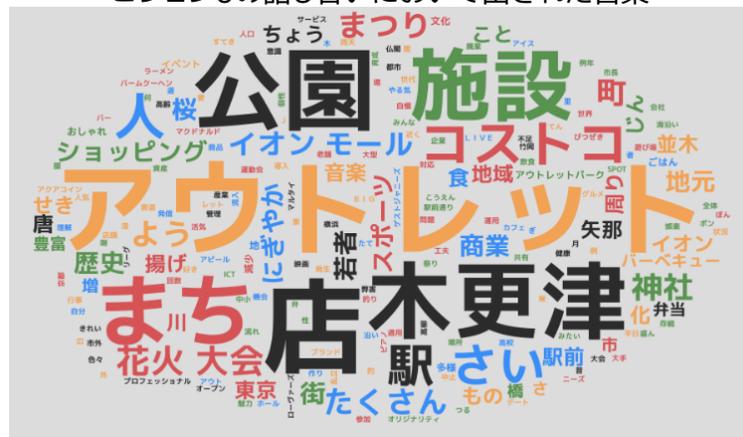
生活する楽しさ

課題	①コロナ禍によるイベントの減少
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 イベントができる場所の情報を HP や SNS 等のオンラインに残してわかりやすくする <ul style="list-style-type: none"> ●公園、公民館、文化センター等 2 イベントのオンライン中継をしてアーカイブを残し、より多くの人に知ってもらう 3 イベントは規模の縮小・人数制限をして複数回に分ける(予約・招待制)

課題	②世代によるニーズの違い
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 道の駅に子ども、若者が遊べる施設、遊具をつくる 2 クラウドファンディング※7を活用して、子育て世代向け公園の遊具を増やす 3 どの世代が何をやりたいと思っているのかアンケートをとり、現状を把握する 4 イベントやおまつりに気軽に参加できる雰囲気、新人が入りやすい仕組みづくり 5 世代ごとそれぞれのニーズに対して、クラウドファンディング※7でお金を集める(自助努力型)

※7 クラウドファンディング: 群衆(crowd)と資金調達(funding)を組み合わせた造語。インターネットを通して活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組み。

ビジョン6の話し合いにおいて出された言葉



プロジェクト2

地元への愛着

課題	③木更津への理解を促進できていない
必要な取組	<ol style="list-style-type: none">1 木更津の歴史について、小学生にも伝わるようにわかりやすくまとめた絵本を作る2 地域・まちを学びながら遊ぶことができるゲームを作る3 木更津市をロケ地としてもっと使ってもらおう4 聖地巡礼

課題	④イベント参加者の減少
必要な取組	<ol style="list-style-type: none">1 アクアポイントやきさポングッズなど、イベント参加者への特典をつける2 子ども向けのイベントを開催する3 イベント情報まとめサイトを作成する(例. 子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」)

課題	⑤東京との競合
必要な取組	<ol style="list-style-type: none">1 「地産地消」をテーマにしたフェスの実施2 東京〇〇という名前のテーマパークを木更津には作らない(ディズニー、ドイツ村…)3 市外(対岸の東京等)の人を呼び、お客様にする4 観光サイトの作成や SNS、ポスター掲示を行い、市外の人に案内やアピールをする

プロジェクト3

文化・芸術・スポーツ

課題	⑥学ぶ機会がない
必要な取組	<ol style="list-style-type: none">1 学校、教育で木更津について学んでもらう2 博物館をもっと利用してもらおう3 きさらづ出前講座を利用してもらおう(市役所×市民の交流)4 郷土博物館金のすずの他にも、歴史を学び、体験できる施設をつくる5 アートの拠点としての美術館の設置6 「知りたい人」と「教えたい人」、「知っている人」のマッチングサイトを作る

生活が便利なまち

めざす未来	<ul style="list-style-type: none"> ●生活の移動に困らないまち ●駅前の利便性があるまち ●ICT が活用され、みんなが恩恵を受けているまち
-------	--

プロジェクト1

日常生活の便利さ

課題	①買い物が不便な地域がある
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 買物に行きやすくする(移動手段の充実) <ul style="list-style-type: none"> ●乗合タクシーの整備 ●駅近の「カスミ」の無料バスをもっとアピールする！ ●小回りの効くモビリティ※8を増やす ●駅前から大型スーパーへのバス路線を増やす、つくる 2 「行かなくても買い物できる」環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ●零細商店への移動販売車の貸出 ●高齢者向けのネットスーパーの設立 3 居酒屋の昼時間における活用 4 生活の基盤となるスーパーを誘致し、仕事帰りの買い物等に利用できるようにする 5 ビジネスとのマッチング 6 駅近に人を住める様にする(空き家、住民 District※9) 7 ニーズ、ポテンシャルの見える化 8 コミュニティストアの設立 9 Alexa 等の AI 音声アシスタントやアプリの活用(便利さや可能性は無限大！)

※8 モビリティ:英語の「mobility」のことで、「動きやすさ」、「可能性」、「移動性」、「流動性」などを意味する。

職業の移動や階層の移動、または乗り物など人の移動に関する用語として使用される。

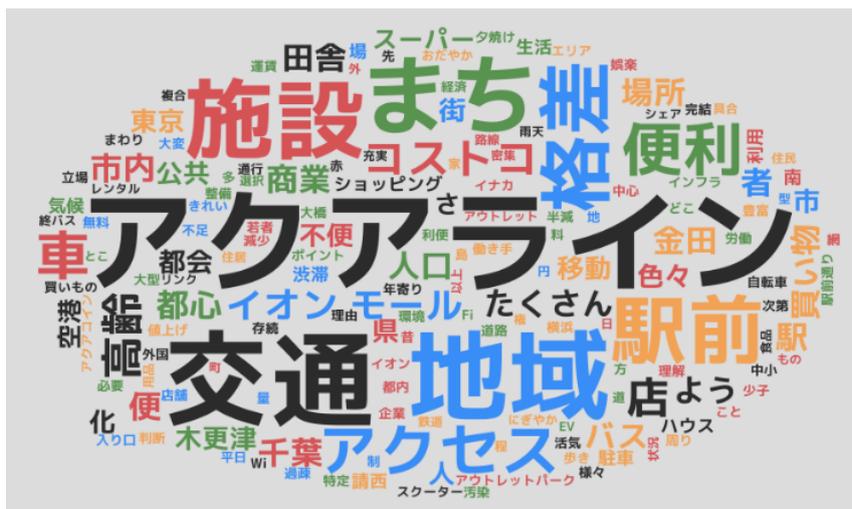
※9 District:区画、地域

課題	②地域の店を応援する気運が不十分
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 アクアコイン利用増加のための各種取組の実施 <ul style="list-style-type: none"> ●アクアコイン限定商品など特別感を出す ●アクアコインの使い方の周知 ●Suica のようなカードでの利用 2 地域のお金の見える化 3 NFT※10 で回るほど価値 UP 4 学校給食等での食育、子どものうちから地産地消を学ぶ 5 お店の近くに住んでもらう

※10 NFT:「Non-Fungible Token(=非代替性トークン)」。

偽造不可な鑑定書・証明書付きのデジタルデータ。デジタル資産。

ビジョン7の話し合いにおいて出された言葉



移動の便利さ

課題	④交通渋滞
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 運転の全自動化 2 時間帯によってアクアラインの通行料金を設定する(ロードプライシング) 3 バスを増便して車の利用を減らし、渋滞の緩和につなげる 4 金田地域等のホテルに宿泊でコストコやアウトレットを割引にする 5 プレートのナンバーによる交通規制(中国の参考例※11) 6 渋滞情報の取得方法・見える化 7 渋滞予測も含めて、全ての車に情報を流す 8 混み合う時間帯の事前周知 9 交通手段の分散(車やバスだけでなく船も！陸だけでなく海も！)

※11 渋滞が深刻な都市部で導入されていたナンバープレートの数字による走行規制。
ナンバープレートの末尾の数字によって、走行禁止となる曜日があった。

課題	⑤アクアラインへの依存
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 新交通ネットワーク、リニアの整備 2 海を使う交通(フェリー、水上バス) 3 終電の時間を遅くする

課題	⑥移動手段の充実
必要な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 コミュニティバスの整備・無料化 2 MaaS※12の開始 3 コンパクト City(地区)のネットをつくる 4 日陰を多くつくり、涼しくすることで歩きやすくする 5 電動のキックボード・自転車の普及に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ●アクアコインで利用できるキックボード ●時間貸自転車の整備(車が運転できなくても使える) ●無料自転車の整備 ●乗り捨てられる自転車 ●自転車専用道路の整備

※12 MaaS:「Mobility as a Service」。公共交通を含めた、自家用車以外の全ての交通手段による移動を1つのサービスとして捉え、シームレスにつなぐ移動の概念、またそれを目的としたサービスのこと。

未来に向けて

「きさらづ未来会議」は、木更津に住む人・働く人・学ぶ人たちが木更津の未来について考え、話し合い、より良い木更津にするために必要なことを提案し、共有する会議でした。

異なる世代と意見交換する機会は少ないため、それぞれの立場では気づかない着眼点からの意見を数多く出してもらい、そのおかげで新しい提案を思いつくこともできました。

参加者それぞれの視点から様々な未来ビジョンを提案しており、ここでも意見の多様性が見られると感じています。

その中には、市で取り組む必要がある大きなもののほか、未来会議の参加者個人でも取り組めるようなものもありました。

今回の「きさらづ未来会議」のように、市の未来について考えるような機会はなかなか無いため、参加者にとっては、とても良い経験になりました。

しかし、会議に参加した人達だけが未来をより良くするために取り組むだけでは、人が足りません。

大きく何かを変えるには大勢の人の協力が必要です。

そして、それぞれは小さな力でも、大勢の人たちの小さな力が大きな力になり、より良い未来づくりに近づけると思います。

今回の「きさらづ未来会議」では、そのスタートラインに立った状態です。

ここからたくさんの人と協力していくためには、まず、今の木更津をもっとたくさんの人に知ってもらい、これからのことを考えていく必要があります。

まちづくりに関わるそれぞれの立場の人たちが、身近な人たちと木更津の魅力を語り、さらに良くするには何が必要かなど考えるきっかけをつくり、市民の皆さんとともに、ビジョン実現に向けて歩んでいけることを強く願います。



資料編 きさらづ会議 開催概要

20年後(100周年)の木更津市に「住みたい」、「住み続けたい」、「働きたい」、「訪れたい」と実感していただくため、まちの未来像とその実現に向けた道筋を描き、持続可能なまちを目指そうとする取組の一環として、未来の木更津市がどのようなまちであってほしいかを市民の皆様と共に考えるワークショップ「きさらづ未来会議」を開催しました。

第1回 きさらづってどんなまち？～木更津市の良さを見つめ直す～

日 時 令和4年5月28日(土曜) 午前10時～

参加者数 32名

「市の魅力」について話し合うとともに、市の状況や課題を知った上で、木更津市が「どのようなまちになるとよいか」を、言葉にしてみる・共有してみる場として会議を開催しました。

1 ワークショップ(きさらづビンゴ)

ビンゴ形式で各自が思う「木更津市の魅力」を出し合い、情報を共有しました。

2 市の状況を知る・考える

世界の動きや市の状況、これまで・これからの市の取組を紹介しました。

3 ワークショップ(ビジョン案の共有)

「どんなまちになるとよいか」のビジョン案を出し合いました。

第2回 これから、きさらづに起きること～木更津市がめざす未来像を考える～

日 時 令和4年6月18日(土曜) 午前10時～

参加者数 31名

「市の未来」を予測して話し合うとともに、今後どんなことが課題になっていくかを考え、共有する会議を開催しました。

1 「未来の不安」を考える練習

「自分の生活」を題材に、未来の不安と対策を考えました。

2 ワークショップ(市の未来を予測する)

第1回の内容を参考に「これからの20年で木更津市に起きるかもしれない問題」について話し合いました。

3 ワークショップ(ビジョン達成に向けた課題を考える)

第1回で話し合ったビジョン案の達成に向けた課題を出し合いました。

第3回 次のきさらづをどう描く？～未来像実現への道筋を考える～

日 時 令和4年7月9日(土曜) 午前10時～

参加者数 31名

これまでの話し合いの内容をもとに設けた7つのビジョン案について、それぞれのグループに分かれ、改めて目指す姿を話し合うとともに、課題の解決に向けて今後必要な取り組みが何か考え、共有する会議を開催しました。

1 「チームワーク」を発揮する練習

7つのビジョン案ごとにグループに分かれてからの初回となるため、「チームワーク」を発揮する練習として各グループで1つのイラストを作り上げ、Liqlid(リクリッド)を活用して会場全体で意見を出し合いました。

2 ワークショップ(「めざす未来」を共有する)

ビジョン案の「めざす未来」の方向性について、改めてグループ内で共有しました。

3 ワークショップ(必要な「取り組み」を考える)

ビジョン案の達成に向けた課題を踏まえ、今後必要な「取り組み」を考えました。また、幅広い意見を取り入れられるように、意見を聞きたい点を整理してLiqlid上に投稿を行い、グループ外の方からも意見を募りました。

第4回 未来に続く地図を描こう！～未来像実現に向けて～

日 時 令和4年7月30日(土曜) 午前9時30分～

参加者数 30名

これまでの話し合いをもとに各グループでビジョンを取りまとめ、全体発表を行いました。発表後は、自分のグループのビジョンと他のグループのビジョンとの関係性を考え、グループ内で話し合いました。

1 最終調整

これまでの話し合いをもとに各グループでビジョンを取りまとめました。また、各自イチオシの取組を3つまで選び、グループ内で投票し、発表の際に特に説明したい部分を確認しました。

2 発表

ビジョンごとに「めざす姿」「課題」「ビジョン達成に向けた取組」について発表を行いました。

3 ビジョン間の関係性を整理する

自分のグループで話し合ってきたビジョンが他のビジョンとどのように関係するかを考え、話し合いました。